前身は
砂丘利用研究施設

鳥取大学乾燥地研究センターは、もともと農学部附属の「砂丘利用研究施設」として砂丘地の農業利用、開発を研究してきました。その始まりは大正12年、湖山砂丘試験地で行われた砂防造林の研究からです。ここで考案された砂防造林工法は、広く全国の砂防造林現場で利用され、砂丘地の飛砂固定に大きな役割を果たしました。また、全国に先駆けてスプリンクラーを導入しました。

浜坂砂丘地の農業利用研究は、昭和33年、旧文部省より研究施設の設置が認められて始まりました。砂の乾燥防止（灌漑）の研究、作物導入の研究、機械化の研究などが、それぞれの専門分野で展開され、砂丘地の農業研究を目的とした研究機関として、砂丘地農業の発展のため、地元に密着した研究を行いました。

昭和40年代にアフリカのサヘル地帯で干ばつが発生し、世界で砂漠化が問題視されるようになったため、昭和48年に、従来から行ってきた砂丘地の農業利用の研究に、乾燥地の農業的利用の研究が新たに加えられました。その後、砂丘地農業への役割は終えたとして、平成2年に乾燥地研究センターへ名称を変え、世界に貢献する乾燥地の研究に重点を移しました。

《 沿 革 》

大正12年（1923）	鳥取高等農業学校（現鳥取大学農学部）に湖山砂丘試験地が設けられ、砂防造林の研究を開始する。
昭和33年（1958）	旧文部省より鳥取大学農学部附属砂丘利用研究施設の設置が認められ、農学部門が発足する。
昭和48年（1973）	それまで行ってきた「砂丘地の農業利用の研究」に「乾燥地の砂漠化防止と農業的利用の研究」を新たに加える。
昭和53年（1978）	乾燥地研究について他大学教官との共同研究を開始する。
平成２年（1990）	鳥取大学乾燥地研究センターに改組され、全国共同利用施設となる。
平成21年（2009）	共同利用・共同研究拠点として認定される。≪平成22年度～令和9年度≫

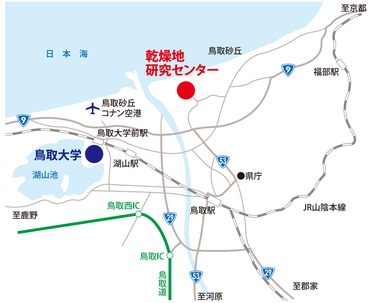
昭和35年頃 兵舎研究棟

昭和40年頃 センター本館

アクセス

■バス
鳥取駅バスターミナルより「十六本松」行き、浜坂小学校前下車、徒歩約20分。

■タクシー
鳥取駅より約20分。空港・大学より約15分。



文部科学省 共同利用・共同研究拠点
Joint Usage / Research Center
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
国立大学法人 鳥取大学
乾燥地研究センター
Arid Land Research Center, Tottori University
〒680-0001 鳥取市浜坂1390
TEL.0857-23-3411 FAX.0857-29-6199
https://www.alrc.tottori-u.ac.jp

発行：
とっとり乾地研倶楽部事務局 鳥取商工振興協会
〒680-0031 鳥取市本町3丁目201番地
TEL.0857-26-6886 FAX.0857-22-0155

とっとり乾地研倶楽部

「とっとり乾地研倶楽部」は乾燥地研究センターの活動、研究成果についての情報発信を行い、センターの活動を地域で支えている組織です。
「とっとり乾地研倶楽部」では、会員を随時募集しています。詳しくは、とっとり乾地研倶楽部事務局へお問い合わせください。

2025年5月

文部科学省 共同利用・共同研究拠点
Joint Usage / Research Center
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

国立大学法人 鳥取大学
乾燥地研究センター
Arid Land Research Center, Tottori University

photo:アリドドーム実験棟

乾燥地研究センターとは?

乾燥地研究に組織的に取り組む我が国唯一の研究機関

「乾燥地研究センター」は文部省（当時）指定の全国共同利用施設として1990年に設立されました。現在は、鳥取大学の研究施設であると同時に、国内外の大学・研究機関から研究者を迎えて乾燥地研究を行う「共同利用・共同研究拠点」として、以下の活動を行っています。

- ○ 乾燥地における砂漠化や干ばつなどの諸問題の解決および人と自然の持続性の維持・向上に資する研究を推進
- ○ 乾燥地を有する途上国のSDGs達成への貢献
- ○ 国際学術ネットワークの形成による研究者コミュニティを拡大
- ○ 耐乾性植物等のデータベース・標本の保存・活用
- ○ 若手研究者の人材育成

乾燥地研究センターが取り組む主なSDGs

乾燥地農業

気候変動影響と適応策

砂漠化対策

乾燥地研究が必要な３つの理由

1. 国際的な課題に対して世界中の研究者が立ち向かっています。国際社会の一員として日本は砂漠化対処条約に批准しており、果たすべき役割が日本にはあります。
2. 砂漠化の影響は国境を越えて直接日本にもやって来ます。例えば、毎年春に飛んでくる黄砂がその典型です。黄砂や PM2.5 の被害を改善するための研究が求められています。
3. 経済のグローバル化は日本と世界をつないでいます。例えば、日本が輸入する小麦やトウモロコシの大部分は乾燥地の畑から来ています。

乾燥地研究センターは、世界の平和と持続的発展を願う立場から、わが国における乾燥地科学の研究の中核として研究に動しんでいます。